

家庭数

令和元年11月11日
(2019年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田東小学校
校長 宮本 和彦

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 結果についての項目

(1) 国語

《 概要 》

- ・本校の平均正答率は、各領域で全国値と比べ下回っているものが多かった。特に、話すこと聞くことは課題が見られる。

○「話すこと・聞くことについて」

- ・インタビューの様子に関する問題では、平均正答率が全国値を下回っていた。話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて質問を工夫したりすることに課題が見られる。

○「書くことについて」

- ・調べたことを報告する文章の設問で、図表やグラフなどを用いた目的を捉える

問題は、全国値をやや上回った。

- ・情報を相手にわかりやすく伝える記述の仕方の問題は全国値を下回った。

○「読むことについて」

- ・資料の読み取りに関する問題では、平均正答率が全国値をやや上回っていた。このことから、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことは概ねできていると考える。
- ・目的に応じて文章全体の大体の様子を掴み、効果的に読む問題は全国値を下回っていた。

○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について」

- ・漢字に関わる問題では、書き取り問題の平均正答率が全国値を上回っていた。
- ・同音異義語の問題は、全国値を下回っており、漢字の持つ意味を理解し、正しく使う力に課題が見られた。例：正「調査の対象」→ 誤「調査の対称」

《 国語科における成果と今後の指導改善点 》

- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、文章内容や話の要点を意識しながら聞いたり話したりする力に課題があると考えます。そのため、日々の授業で、話や文章の要約、要点を聞いてメモする等の時間を充実させていきます。また、自分の考えを伝えようとする意欲はありますが、文章や問題内容を読み取る力と目的や意図に応じて書く力に課題があると考えます。そのため、授業、朝の学習などで、読解問題や記述式の問題に取り組み、読む力・書く力をつけていけるよう指導の改善を行っていきます。

(2) 算数

《 概要 》

- ・本校の全体の平均正答率は、全国値を上回っていた。
- ・ただし、数学的な考え方を問う記述問題は全国値に比べ無回答率が高かった。

《 各領域における成果と課題 》

○「数と計算」

- ・棒グラフから問われていることを読み取る問題では全国値を上回った。
- ・除法（割り算）の式から代金を求める問題でも、全国値を上回った。
- ・複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題について、無回答率が目立ったものの、全国値は上回った。

○「量と測定」

- ・2つの合同な台形で作られた形の面積の求め方を解釈し、その説明を記述で答える問題では、全国値を上回った。
- ・資料の特徴や傾向を関連づけて一人当たりの量を求める問題では、全国値を上回った。

○「図形」

- ・長方形を直線で切り取り、台形について理解しているかを問う問題では、本校児童は全員が正答した。
- ・合同な図形の性質を考える問題では、全国値を上回った。

○「数量関係」

- ・棒グラフから資料の特徴を読み取る問題では、全国値をやや下回った。しかし、棒グラフから特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を記述する問題に関しては、全国値を上回った。
- ・割合の問題では立式の方法を理解しており、全国値を上回った。

《 算数科における成果と今後の指導改善点 》

<成果>

- ・4年前より、毎週水曜日に既習事項に繰り返し取り組むチャレンジタイムを行っています。また、今年度より、全学年とも算数の授業の初めに「復習タイム」を設けています。基礎的な問題の正答率が高くなってきていることから、復習を毎日行い、反復することで、学力の向上につながっていると考えます。

授業では、児童がその時間の課題に対して考えやすいように、

- ①その時間の学習の「めあて」をわかりやすく説明する。
- ②解き方やおよその答えの見通しを持たせたる。
- ③どのように考えて問題を解いたかを説明する。
- ④授業の終わりに「まとめ」「振り返り」の時間を設定する。

という流れで行うなど、学校全体で指導の工夫・改善をしています。

- ・記述式の問いに対して、全国値に比べると、未だ無回答率が高いものの、改善されつつあり、あきらめずに問題に取り組み意欲や考え方を説明する力がついてきていると考えます。

<課題>

- ・記述式での誤答が多い様子がうかがえます。考える力、文章から聞かれていることを読み取る力や数学的な考え方ができる力を身につける必要があると考えます。成果でも挙げた通り、「めあて」から「振り返り」まで一連の流れで行っている授業において、どのような方法で考えたかを表現できる力がつくように今後とも授業の工夫・改善を行っていきます。

- ・数量関係の棒グラフの情報を読み取る問題では、記号選択の問題でも、ともに全国値を下回ったことより、生活と結び付けて考えることができるよう、社会科や理科などの、他教科の時間でもグラフを活用したり、グラフから読み取ったりする力をつけていけるよう、授業を工夫していきます。

2 生活習慣や学習環境（児童アンケート）に関する調査結果

【学力調査、教科・学習について】

○算数の勉強の意識を問う項目

- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」の項目では、全国値をやや上回っている。
- ・「算数の勉強は好きですか。」の項目では全国値をやや下回っている。
- ・「算数の授業で学習したことは将来社会に出たときに役立つと思いますか。」の項目では、全国値をやや下回っている。
- ・「算数の問題の解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考えますか。」の項目では、全国値を下回っているが、「もっと簡単に解く方法がないか考えようとしている」割合は全国値をやや上回っている。

○国語の学習の意識を問う項目

- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」の項目では、全国値を下回っている。
- ・「国語の勉強は好きですか。」の項目では全国値を下回っている。
- ・「国語の授業では目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしていますか。」の項目では全国値をやや下回っている。
- ・「文章や資料を読むとき目的に応じて必要な語や文を見つけたり文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」の項目では全国値を上回っている。
- ・「学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか。」の項目では全国値をやや上回っている。

【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合は、全国値とほぼ同じ割合で、高い数値を示している。

→今後も学校全体で「いじめはいけないことだ」というを学ぶ授業・取り組みをすすめていきます。

- ・「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことはありませんか」の項目では、全国値とほぼ同じ割合で、高い数値を示している。
- ・また「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の項目では、全国値をやや下回ってはいるが、高い数値を示している。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、全国値を下回っている。

→授業や行事等を通して、友だちと学び合い、自分のよさを見つけ自尊感情を高められる、取り組みを継続、充実させていきます。

家庭での学習・生活について

- ・家庭での学習に関する2つの項目「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」(30分以上勉強している割合)は全国値を下回っている。

- ・生活の様子に関する項目:「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」は、全国値を下回っている。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」は全国値と同じ割合である。

→「早寝、早起き、朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活は子どもたちの健やかな成長にはかせないものです。今後とも生活リズムを整えるために、子どもたちへの声かけをお願いいたします。

3 今後の取り組み H31年度

本校では、学力の向上を重点的な課題と捉えて取り組みを進めてまいりました。

指導力の向上・学力の向上を図るための取り組みについて

今年度は「物語のおもしろさを味わいながら読む力育てる」をメインテーマに、「わかってうれしい！つながってうれしい！自分の思いを書き、伝え合う子どもをめざして」をサブテーマに設定し、国語科の授業の研究を進め、指導力の向上に取り組んでいます。児童が主体的に学び、学力を向上できる授業作りや指導方法の工夫改善を図るため、今後も研究を重ね授業を充実させていきます。

また、算数科においては、引き続き、少人数指導を3年生から6年生で実施し、

学習進度に応じた、きめ細かな指導を行っています。朝学習や放課後の補充の時間、金曜日の東っ子スタディでは、学習が十分に定着するよう、個々の進度に応じ学び直すことができるようにしています。

本校の課題

本校では、以前より大きな課題として、無回答率の高さが上げられます。自信をもって自分の考えを表現することに課題があり、ゆえに考えを記述する問題、問題文の長い課題の際は正答率が低く、無回答率も高くなる傾向が見られます。

生活習慣や学習環境の結果からも、自分や友だちの良さを実感したり、自分の意見を進んで発表・発言したりすることに課題が見られました。

課題に対する取り組みについて

自分の考えを持ち表現する力や「やればできる」という根気よく問題に取り組めるようになるために、どの教科の授業においても以下の項目を重点的に取り組んでいます。

- ①自分の考えを持ち、書き表せること。
- ②ペアやグループでの交流を行い、自分の意見をわかりやすく伝える表現力をつけること。
- ③自分の意見が友だちのためになった喜びを感じ、自尊感情が高められること。

学校教育活動全般を通して、児童が努力したことが認め、成功体験を積み重ねることで、「やればできる」ということに気づかせることや集団の中で、自分が大切な存在であるということを自分自身で認識することで自己肯定感が高まっていくと考えます。

このようなことは、将来においても、あきらめず解決していく力の基となりますので、地道に取り組んでまいります。

学習習慣を身につけ、学習内容を定着させるには、ご家庭の協力が必要です『テレビやゲームの時間を減らして読書や勉強をする』『明日の準備をする』など、自分から進んで計画的に学習できるようにご家庭でもお声かけや見守りをよろしくお願いいたします。

これからも、学校や友だちの話をする機会を多く持っていただき、ご家庭と学校が連携し合って、子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。